

第1章 第2次プラン策定の背景と目的

ガーデンシティ構想推進プランは、北陸新幹線金沢敦賀間開業やインバウンドを考慮した成長戦略の1つとして、平成28年7月に第1次プランを策定し、これをベースに施策を展開してきた。プラン策定から5年経過し、加賀市を取り巻く社会情勢が大きく変化している現状を踏まえ、ガーデンシティ構想の第2次プランとして改定する。

3つの事象を主な背景に、緑に関するシティプロモーションを目的とした加賀市の水と緑の環境づくりに着手する。

1) 北陸新幹線金沢敦賀間開業に伴う集客への期待の高まり

北陸新幹線は2024年春、金沢駅から敦賀駅まで延伸開業予定であり、停車駅として加賀温泉駅が設けられる。これに伴い、駅前や温泉街を中心に整備の推進や取組の活発化が見られ、市外からの集客が期待されている。

2) 新しい生活様式における公園の価値

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外出を控える傾向が増え、健康二次被害が指摘されている。そのため、国では、新型コロナウイルスに対応した「新しい生活様式」において、公園は散歩や運動など、健康的な生活を支える空間として、積極的な活用を促している。



3) SDGs (持続可能な開発目標) の広がり と 加賀市 SDGs 未来都市の認定

SDGs (持続可能な開発目標) は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す世界共通の目標である。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っており、近年はさまざまな場面で、このSDGsの目標を指標とした取組がなされている。



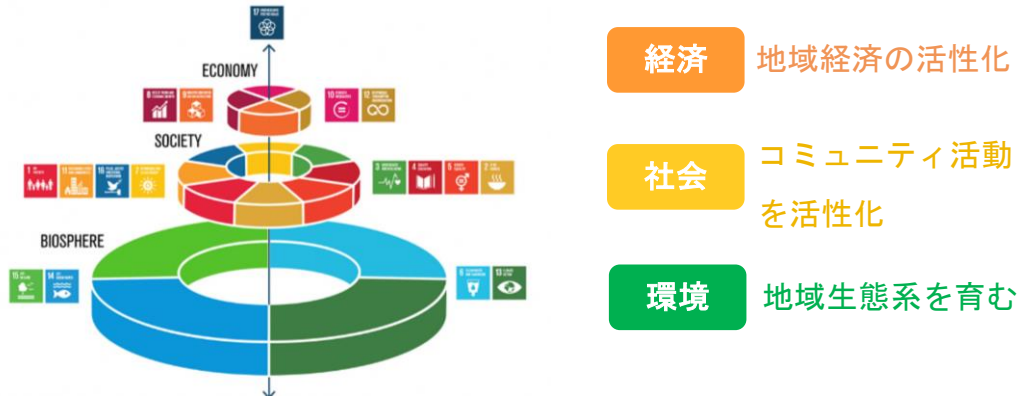
SDGs における 17 のゴール

3) - 1 加賀市の SDGs 未来都市の認定

本市は、2020年に、内閣府より持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた取組を先導的に進めていく自治体として「SDGs 未来都市」に認定された。それに伴い、同年8月には「加賀市 SDGs 未来都市計画」を策定し、地域資本と地元人材を活用した自治体新電力による持続可能なエネルギー利用 (加賀市版 RE100) の推進や先端技術を活用し市民生活の質を向上させるスマートシティの実装などを通して、本市が抱える経済・社会・環境の諸課題の解決を目指している。

3) -2 SDGs から見たガーデンシティ構想の意義

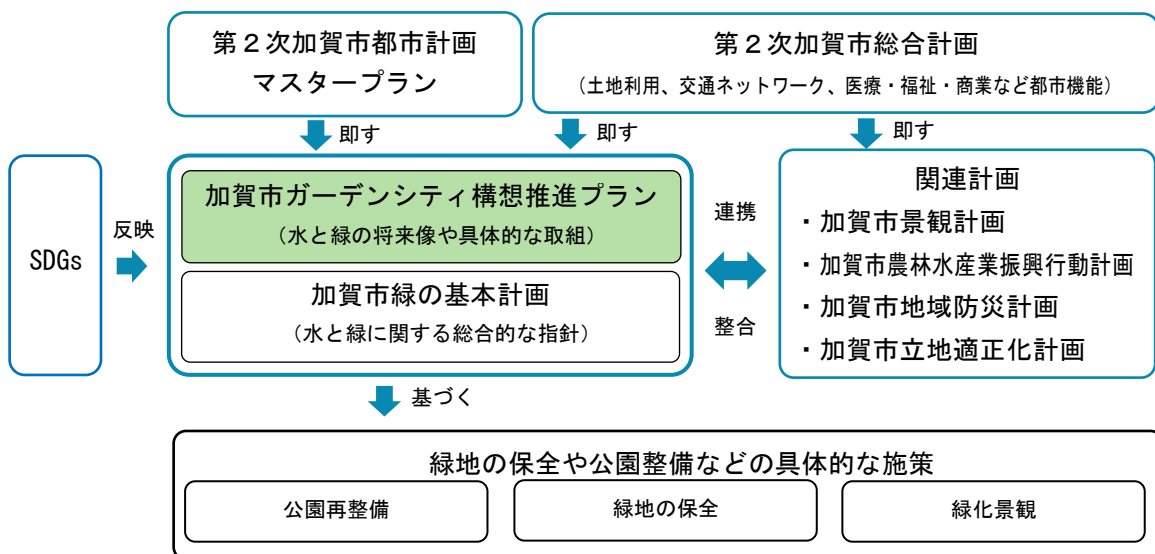
SDGs の17の目標を3つの階層で表しそれらが密接に関わることを示す「SDGs ウェディングケーキモデル」から本市におけるガーデンシティ構想の意義を考えた時、水と緑の将来像に関する方針を示した本構想は、SDGs における「環境」のカテゴリーに対する取組を主としている。第2次プランでは、私たちの生活を支える自然環境を基盤として、市民によるコミュニティ活動と地域経済の活性化を目指す。



SDGs ウェディングケーキモデル 出典：STOCKHOLM RESILIENCE CENTER

4) 本プランの位置付け

本プランは第2次加賀市総合計画と第2次加賀市都市計画マスタープランを上位計画とし、関連計画である加賀市景観計画、加賀市農林水産業振興行動計画、加賀市地域防災計画、加賀市立地適正化計画などと整合を図り、またSDGs の考え方を反映し、本市における水と緑の将来像や具体的な取組について示すものとする。



ガーデンシティ構想推進プランと関連計画の位置付け